

明るい未来はきっと明るい社会

飯島 羽留

私は、いつも登校するとき、地いきの人たち
がきもちよくあいさつをしてくれます。そ
のおかげですが、学校生活を送ること
ができます。また学校について、からもみんな
から、おはようなどの言葉をかけられ、とてもい
いきもちになります。きっとこのきもちはず
私だけでは、ないと思います。でも、なぜ、あい
さつをされると、こんないきもちがよくなるの
でしょう。私は、それがとてもきになった
ので、研究をしました。私が、元気よくあいさ
つすると、みんな、元気よくあいさつをしてく
ました。私が、あいさつすると、相手も、あいさつ
をしてくれます。きっと私も、相手も、気持ち
がよくなりました。と思います。もし、その立場が逆
だ、たととしても、い、い、い、だ、と思います。な
ので、私は、これからも、地いきの人たちや、い
ろいろな人たちに、あいさつをして、いけるよう
にしたいです。

飯島 羽留

あと私はこのあいだ、ゴミ拾いボランティアに参加しました。私は公園などのゴミを捨い歩きました。そのとき大きな旗がありました。「ポイ捨て罰金」とかいてありました。ポイ捨ては罰金をとるほどだめなんだなあと思いました。私はポイ捨をしないようにバがけよくと思いました。でもみんながみんなポイ捨てをしななければ、ゴミ拾いなんかもやらなくてはむし、大きな旗を立てなくてもよくなりです。このようなトートのバがけ、町をきれいにしていきたいと思います。

ほかにも、庭のそうじをしていたら、おばあちゃんが、道をたずねてきました。私はどうしたらいいか、わからなかったのですが、お母さんを呼んできました。そしてお母さんは、まるで親戚のようになって、いねいにやさしく道を案内していました。お母さんが帰ってき、たときに聞いてみました。

「お母さんはどうしてだれにでも親切にできるの？」

飯島羽留

そうするところ答えました。

「自分が道にまよったときに、親切におしえてくれなかつたらいやでしょう」といってました。私はたしかにそうだなあ、て思いました。

私は、とても大切なことを知りました。一目はあいさつをすれば、みんなが気持ちよくなること。二つ目は一人一人がバがける。

三つ目は、人とのコミュニケーションの三つです。これらを守って明るい社をみんなです。

つくっていきたいです。